資料５

農村環境創造基金事業の実施状況等について

富山県農林水産部農村振興課都市農村交流係

令和７年２月21日

富山県農村環境創造基金の概要と令和６年度の取組状況

富山県農村環境創造基金概要

「豊かな自然環境保全」や**「都市農山村交流」**等の活動の活性化を図るため、基金を造成（造成年度H5～H12）
基金造成額：１３億２千万円（負担区分：国1/3、県2/3）
運用益を含めて前年度末の**基金残高の5%以内**で事業を実施（令和5年4月の基金実施要領改正にて3%から5%に引き上げ）

R6年度富山県農村環境創造基金活用状況（表1参照）

・R5年度末時点で約**957,717千円**の残高

・R6年度の基金を活用した事業費の総額は
42,696千円（見込）

表1. R6年度富山県農村環境創造基金活用状況

基金造成年度	R5年度末基金残高	令和６年度基金活用事業予算	
H5～H12年度	957,717千円	(1)豊かな自然環境保全対策	14,503千円
		(2)都市農山漁村交流対策	20,051千円
		(3)県民の意識づくり推進	8,142千円
		計	42,696千円

R6年度富山県農村環境創造基金活用事業（表2参照）

（１）豊かな自然環境保全対策

（２）都市農山漁村交流対策

（３）県民の意識づくり推進

を目的として各種事業を実施

表2. R6年度富山県農村環境創造基金活用事業 単位（千円）

事業名	予算額（基金分）	所管	区分
①棚田保全活動支援事業	500	農村振興課	(1)
②美の里保全活動支援事業	1,050	農村振興課	(1)
③中山間地域チャレンジ支援事業	3,000	中山間地域対策課	(1)
④とやま農業・農村サポーター活動支援事業	1,137	農村振興課	(1)
⑤中山間地域保全パートナーシップ推進事業	1,863	農村振興課	(1)
⑥鳥獣被害防止総合対策事業	6,703	農村振興課	(1)
⑦簡易放牧支援事業	250	農業技術課	(1)
⑧とやま帰農塾推進事業	5,301	農村振興課	(2)
⑨ふれあい創出地域間交流支援事業	600	農村振興課	(2)
⑩交流地域活性化重点支援事業	1,150	農村振興課	(2)
⑪都市農村交流アンバサダー事業	4,500	農村振興課	(2)
⑫都市農村交流サクセッサー事業	1,000	農村振興課	(2)
⑬都市農山漁村交流推進事業	7,500	農村振興課	(2)
⑭田んぼの生き物調べ事業	553	農村振興課	(3)
⑮水土里探訪ウォーク	1,362	農村整備課	(3)
⑯とやまの農山村写真展	2,342	農村振興課	(3)
⑰広報誌「ふるさと夢とやま」発行	1,075	農村振興課	(3)
⑱全国広報誌「新・田舎人」購入・配布	207	農村振興課	(3)
⑲美しい農村景観保全活動支援	1,500	農村振興課	(3)
⑳とやま棚田ネットワークHP更新	425	農村振興課	(3)
㉑とやま棚田ネットワーク活動支援	449	農村振興課	(3)
㉒全国棚田サミットへの派遣	199	農村振興課	(3)
㉓全国研修会等への派遣・参加	20	農村振興課	(3)
㉔事業委員会の開催	10	農村振興課	(3)
計	42,696		

令和６年度の各事業取組状況

豊かな自然環境保全対策

県内の農村が有する豊かな自然環境の保全のため、
各種保全活動や地域活動に対して支援する。

例．棚田地域保全活動支援事業の実施

耕作放棄地利活用、農村体験活動などの棚田保全活動を支援

＜対象地域＞　棚田保全活動を実施することにより集落の活性化が見込まれ、かつ継続的に活動が期待できる地域

＜R6実績＞　県内2地区に支援（氷見市熊無地区、氷見市長坂地区）

そば刈り取り体験
（氷見市熊無）

棚田オーナー事業
（氷見市長坂）

都市農村交流対策

都市農村交流を通じて、都市には無い農山村の魅力を肌で感じでもらうほか、県との関わりの深い関係人口の増加を図る。

例．とやま帰農塾の開催

富山県内の特色ある田舎暮らし体験ができる「とやま帰農塾」を開講

＜R6実績※＞　（開催回数）　県内８市町で９塾開講
（参加者数）　54名
（移住者）　50名（累計）

酪農体験の様子
（国吉塾）

地域の【狩女】との交流の様子
（南砺塾）

県民の意識づくり推進

県民に対して農村や農村が持つ多面的機能の素晴らしさを普及・啓発し、豊かな農村環境を育む意識を創造する。

例．水土里探訪ウォークの開催

ウォーキングを通じて、土地改良施設の役割や地域の歴史について理解を深めてもらうためのイベント

＜R6実績＞　（開催日時）　令和６年６月１日
（開催場所）　福光体育館周辺
（参加人数）　166名

ウォーキングの様子

農地整備事業の
説明を受ける参加者

今後の展望

課題

・**中山間地域**において、各種課題が存在

- **高齢化**や**人口減少の進行**に伴う**担い手減少**
- **農業生産活動**や**地域コミュニティ機能の低下**
- 多様な**地域活動**や**都市農村交流**への支援　等

⇒基金事業の**継続的な実施**と、県内各地で展開されている地域活動に対する**きめ細かな支援**が必要

今後の取組方針

1　中山間地域の有する多面的機能の発揮を図るため、地域資源の保全やその利活用を推進する。

2　多様な都市農村交流の推進により、関係人口の増加・深化を図る。

3　新たな総合計画の策定に向けて、多様な地域活動や都市農村交流を支援していく施策を盛り込む。

資料５－１

富山県農山漁村総合サイト「むらまち交流ラボとやま」の開設について

富山県内の農山漁村地域の情報を集約した総合サイト**「むらまち交流ラボとやま」**を２月 26 日に開設します。

１．「むらまち交流ラボとやま」について

富山県内の農山漁村地域の振興や、県内外の若者に県内の農山漁村地域に関心を持ってもらうことを目的とし、地域の情報を集約した「むらまち交流ラボとやま」を開設します。集約した情報を「体験・イベント」、「食べる・買う」、「泊まる」のカテゴリごとに分類して掲載するほか、県が実施する事業の情報や、農山漁村地域に関連したコンテンツを掲載した特集ページ等も設けます。

※上記画像はいずれも制作中のものです。

２．LINE 公式アカウントについて

「むらまち交流ラボとやま」と連動した LINE 公式アカウントも同時に開設し、スマホからでも容易に当該サイトにリンクできるようにします。LINE は利用者数も非常に多いツールであるため、LINE からのアクセス経路を確保することで、サイト利用者の増加を見込みます。また LINE 公式独自のコンテンツとして、「とやま農業・農村サポーター活動」への参加を通じて獲得できるサポーターポイント閲覧サービスも今後リリース予定です。

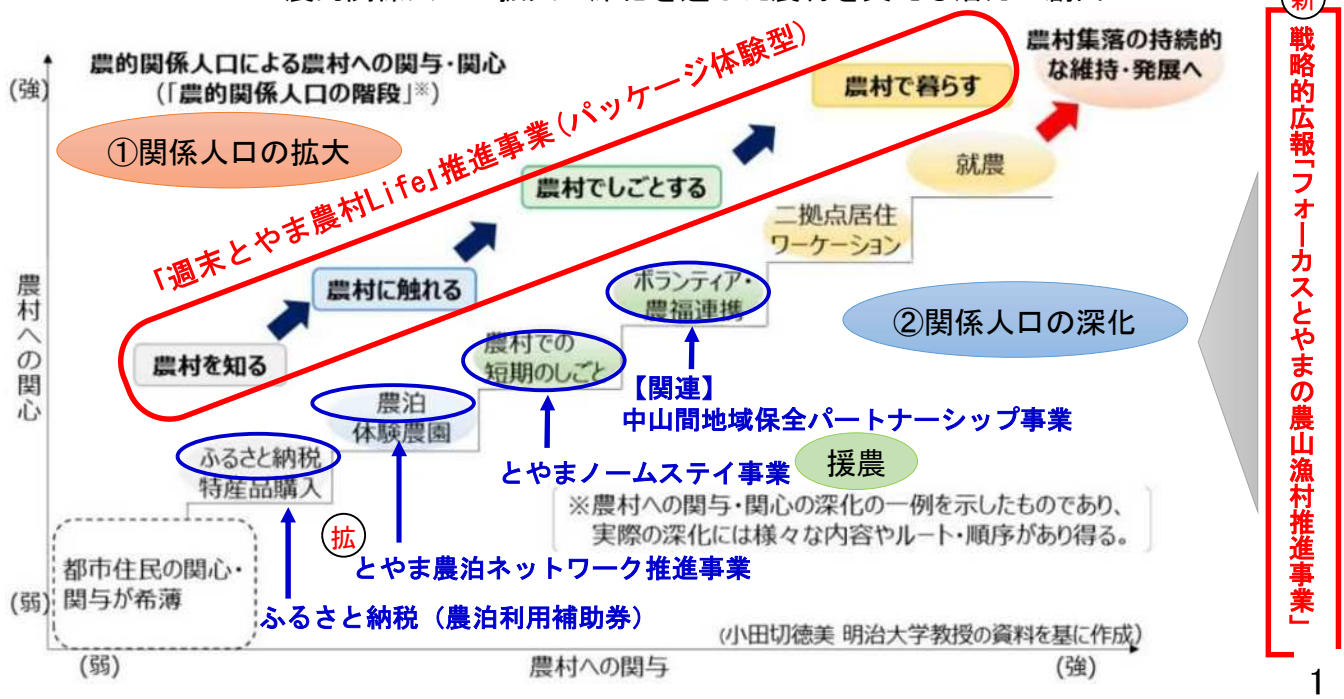
※上記画像はいずれも制作中のものです。

「とやま農村Life」推進事業について

資料５－２

○　農業･農村や援農の視点から「関係人口の拡大･深化」に向け、農村への関心･関与のステップを意識した体系的な取組みへ、関連事業を見直し。
○　「関係人口の拡大」として、各ステップをパッケージで体験する事業や、戦略的な広報のため、関連事業の情報発信を一元化。
○　「関係人口の深化」として、各ステップを個別にフォーカスし、農業・農村での体験や活動を深掘り。

農的関係人口の拡大・深化を通じた農村を支える活力の創出



「とやま農村Life」推進事業の体系整理

【農業・農村での関係人口の拡大】

1　「週末とやま農村Life」推進事業（パッケージ体験型）

○来訪による農業体験、農村暮らし満喫、農業・農村の伝統文化体験
○バーチャル体験コンテンツ制作

新　2　戦略的広報「フォーカスとやまの農山漁村」事業

①広報・情報発信プラットフォームの運営
②関連事業の一元的な広報（広報物、VRコンテンツの制作等）

【農業・農村での関係人口の深化】

拡　3　とやま農泊ネットワーク推進事業

①富山県農泊推進ネットワーク会議の運営（連携交流活動の開催など）
②受け入れ地域の育成対策（各種研修の開催など）
③農泊の誘客促進対策（観光要素を加えたツアー企画など）

4　ふるさと納税（農泊）

○返礼品に農泊利用補助券を追加（R7.1～）

【援農での関係人口の深化】

5　とやまノームステイ事業

○短期的に滞在しながら農作業を実施

【関連事業】

・中山間地域保全パートナーシップ推進事業
①企業や団体等との連携を促進
②農業・農村ボランティアに関心がある方とのマッチング

資料５－３

「とやま農泊宿泊チケット」のワクワクとやま応援寄附金返礼品への登録について

ワクワクとやま応援寄附金（ふるさと納税）の返礼品として、県内の対象宿泊施設で利用ができる「とやま農泊宿泊チケット」を登録しました。

１．とやま農泊宿泊チケットについて

富山県内の農泊に取り組む地域（富山県農泊ネットワーク会議加入地域）にある宿泊施設のうち対象施設での宿泊に利用できる宿泊チケット

（チケットイメージ）

（さとふるサイトへ）

・ふるさと納税 EC サイト「さとふる」より寄付
・寄附金額 10,000 円につき額面 3,000 円のチケットを１枚発行
・有効期限は発行日より１年

２．対象施設一覧（R7.2.21 現在）

施設名	所在地
黒部ゲストハウス 未完なサン	〒938-0827 黒部市中陣502
古民家 とやまのめ	〒939-0303 富山県射水市西高木795
民宿　中の屋	〒939-2516 富山県南砺市利賀村坂上551

※対象施設は順次増加となる見込み。